

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人大分大学

1 全体評価

大分大学は本学憲章に則り、国際化が進む社会及び地域のニーズに的確に対応できる豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、大分県唯一の国立大学として「大分創生」を目指し、これまでに蓄積してきた知的資源を最大限に活用した教育・研究・医療・社会貢献活動を積極的に展開し、もって地域活性化のための「知」の拠点としての機能の高度化を推進することを目指している。第3期中期目標期間においては、社会が求める高い付加価値をもった人材の養成、「知」の拠点としての機能の高度化、新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学の経営の実現を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、ダイバーシティ推進本部や大分大学減災・復興デザイン教育研究センターを設置するなど「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 大分県介護支援専門員協会「主任介護支援専門員研修」において講師を務め、大分県介護支援専門員協会との協働のもと、主任介護支援専門員に求められる「コミュニティ・ソーシャルワーク」の知見を継続して提供している。「ユニット『地域包括ケアシステム』を支える研究・教育拠点の創生」に関する取組

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載21事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 男女共同参画推進に向けた取組

女性教職員の活躍推進、女性教員採用枠の確保、子育てや介護支援によるワーク・ライフ・バランスの実現等研究活動のサポート等を通じ、ダイバーシティ社会を実現していくため、ダイバーシティ推進本部を設置した結果、平成29年度の女性教員比率は、18.8%（対前年度比1.0ポイント増）となっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 研究活動における不正行為

教育学部において、研究活動上の不正行為（盗用）を行っていた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 社会福祉士/精神保健福祉士 合格率全国トップランクを達成

様々な社会的課題を解決できる実践力の高いソーシャルワーカーの育成を目指しており、1年時よりこのことを強く意識した教育を実施している結果、社会福祉士国家試験新卒者は32名中30名の93.8%が合格（全国214校中3位）、既卒者も含めた全国順位は2位と、総数（新卒+既卒）の合格率86.1%は、過去最高の結果となっている。また、精神保健福祉士国家試験は、受験者3名全員が合格し、5年連続で合格率100%を達成している。

○ 「大分大学減災・復興デザイン教育研究センター」の設置

地域における防災教育・活動の支援と深化、地域課題把握とリスクマネジメント・災害対応の強化、復興デザイン（事後復興）研究と地域社会との連携を目的とし「大分大学減災・復興デザイン教育研究センター」を設置しており、各学部・センターや学外組織（国・自治体等）・関連主体との連携を図りながら取組を行っており、豊後大野市の地すべり、津久見市等の県南への台風による豪雨災害、日田市等豪雨による大規模な土砂崩れ現場の3次元データなどを作成し、防災・減災の拠点として、大分県や各自治体等と連携し地域に貢献している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 国際交流を通じた医療人材の育成

内視鏡に関する人材育成を目的に、ピラゴフ名称ロシア国立医学研究大学と大学間交流協定を締結し、「日露内視鏡協力トレーニングセンター」を設置し、モスクワにてトレーニングコースの開催やテレカンファレンスによる技術指導を実施するなど、国際交流による医療人育成に努めている。

（診療面）

○ 多職種連携促進の構築

総合患者支援センターへ退院支援に専従する看護師及びメディカルソーシャルワーカーを増員配置し、多職種による早期カンファレンス等の実施、地域の医療機関や介護支援専門員との連携体制を構築している。

（運営面）

○ 豪雨被災地での診療活動支援

福岡・大分両県を襲った九州北部豪雨（平成29年7月）の被災地である日田市へ医療支援チームと災害医療コーディネーターを派遣し、避難所での医療ニーズの把握、診療、健康相談を行いながら、避難所のアセスメントを実施するなど、地域の基幹拠点病院としての役割を果たしている。